

1

特集

多様性が育む学びの場へ 多文化事業で様々な取り組みを実施

Vol.45
November
2025

埼玉大学は、令和6年度文部科学省補助金事業である「ソーシャルインパクト創出のための多文化共修キャンパス形成支援事業(略称：多文化事業)」に採択され、実践的な多文化共生教育を全学展開することを目標に様々な活動を実施しております。

Cace1：JICA(国際協力機構)と「日本・アフリカ ユースキャンプ」を開催

日本政府は本年8月20日(水)～22日(金)、横浜で第9回アフリカ開発会議を開催しました。会議の横断的テーマとして「若者」が掲げられていることもあり、それに先立つパートナー事業として、8月7日(木)・8日(金)、本学とJICA(国際協力機構)共同による本キャンプをJICA東京で開催しました。本学の日本人学生20名、アフリカ人留学生8名(ガーナ、ケニア、ナイジェリア、チュニジア出身大学院生)が参加し、2日間にわたり活発な意見交換・交流を行いました。

参加した日本人学生からは「留学生と意見交換する中でこれまでのアフリカのイメージが変わった。母国愛の強さ等は見習いたいと思った」、またアフリカ人留学生からは「日本人学生がとてもフレンドリーだったし、彼らの共創的協力に関する各種アイデアに感銘を受けた」等の振り返りがあり、双方にとって新たな発見・学びを得た貴重な交流機会となりました。



Cace2：多文化共修科目の講義成果展を開催

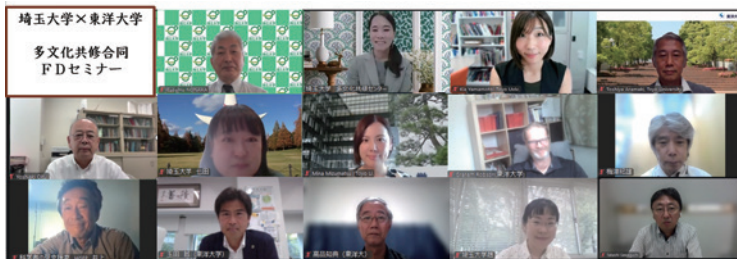
7月28日(月)から8月1日(金)の間、教育学部コモ1号館1階ギャラリースペースにて多文化共修科目「AL2(Workshop in Drawing a)」講義成果展を開催しました。

日々のドローイング制作と対話を通じて、自分自身の趣向や内面に気づくことを主眼とした、全学部生や短期留学生が対象の本講義では、留学生も生成AI翻訳を活用して、日本人学生との対話に参加しました。受講生はドローイングを通して、自分でも気づかなかった好みや興味を発見。また、国や学部の違いが作品に反映される様子も観察されました。講義の成果を披露しあい、多文化共修の学びの広がりを感じる機会となりました。



Cace3：第1回 埼玉大学×東洋大学「多文化共修・国際共修合同FDセミナー」を開催

9月12日(金)、「多文化共修・国際共修における授業設計と評価の実践」をテーマに、本学と東洋大学による合同FDセミナーをオンラインで開催しました。本セミナーは、両大学間の包括連携協定に基づく共同取組として実施され、本学が進める多文化事業をさらに発展させるとともに、他大学との協働を通じて視野を広げる貴重な機会となりました。



この事業に関する情報は本学多文化共修センター
ウェブサイトをご覧ください
<https://www.saitama-u.ac.jp/mcpsu/>



2
学生

学生の挑戦を応援！―「チャレンジ応援プロジェクト」令和7年度も始動

昨年度に続き、「チャレンジ応援プロジェクト」が今年度も始動しました。学生のチャレンジ精神を応援するプロジェクトで、特に大学や地域・社会に貢献など学生が積極的に取り組むプロジェクトを通して、自主性、積極性、創造性を高め、人間的に成長を促すことを目的としたプログラムです。

今年度は、個人申請3件、グループ申請4件の計7件の応募があり、一次選考の書類審査と二次選考のヒアリング審査を行い、最終的に右記3件が採択されました。

採択チームは、設定した研究計画に沿って令和8年2月末頃まで活動し、3月に成果報告を行う予定です。

●部門：自由部門(グループ申請)

標 題	音楽で世代間交流～昭和歌謡とJ-popを通して～
所属・氏名	フラワーロック・アラモード 教育学研究科専門職学位課程教職実践専攻 大塚 真里奈さん 教育学部学校教育教員養成課程小学校コース 芸術専修 音楽分野 久保 香純さん

●部門：自由部門(個人申請)

標 題	タイと日本のマイノリティを繋ぐ、ジャーナリズム始動の旅
所属・氏名	教養学部教養学科 高山 ひかるさん

●部門：自由部門(個人申請)

標 題	土地を喪失した人々の暮らしと支援の介入余地を探る： ラオス開発避難民コミュニティにおける現地調査
所属・氏名	教養学部教養学科 飯島 百々葉さん

3
学生

埼玉大生が開発した「埼玉大アプリ」リリース

埼玉大アプリとは、埼玉大学認定ベンチャー企業第4号(令和7年7月4日付認定)の株式会社nekonataが開発・運営をしている、埼玉大生が「埼玉大生活をより豊かに、より便利に」過ごすことができるように作成した大学アプリです。主な機能としては、【時間割機能】【修得単位計算機能】【各種webサイトへのリンク集】【掲示板機能】があります。

開発者の株式会社nekonata 代表取締役社長 田原大輔さん(大学院理工学研究科 博士前期課程2年)からは、「埼玉大アプリをより良いものにしていくためには、皆さんからのアイデアが必要不可欠です。ぜひ使ってみて、こんな機能が欲しい、こんな情報が欲しいなどがあれば、アプリのロケットマークからお気軽にお知らせください」との意欲を語りました。



▲株式会社nekonataメンバー

4
教育

小中学生が科学の魅力を体験 ― ERATO豊田植物感覚プロジェクト主催の科学実験教室を開催

7月21日(月)、本学理学部3号館にて、小中学生向け夏休み特別企画「わいわい科学の実験@埼玉大学」を開催しました。本イベントは、理工学研究科 豊田正嗣教授の研究室が中心となって進めている「ERATO豊田植物感覚プロジェクト」の一環として行われたもので、科学の楽しさを子どもたちに伝えることを目的としています。

当日は、200名を超える応募の中から抽選で選ばれた約40名の小中学生が参加し、網蔵優子助教を中心に、中村匡良教授、小川哲史准教授、須田啓助教など、多くのプロジェクトメンバーが指導にあたりました。

各班には研究室の学生たちが先生役としてつき、参加者が安全かつ楽しく体験できるようサポートを行いました。子どもたちは、目を輝かせながら科学の不思議に触れ、知的好奇心を大いに刺激された一日を過ごしました。



経済学部グローバル・タレント・プログラムの学生が 日本英語模擬国連(JEMUN)にてPositive Impact Awardを受賞

7月19日(土)～21日(月)、近畿大学で開催された日本英語模擬国連大会、Japan English Model United Nations (JEMUN)にて、経済学部グローバル・タレント・プログラム(GTP)所属の1年生と2年生計20名が、Positive Impact Awardを受賞しました。

今大会では、全国および海外の大学からの400名以上の参加学生が、“Innovate to Elevate: Pioneering Solutions for Global Challenges”[革新で高みへ：グローバルな課題への先駆的解決策]の全体テーマのもとに、人道支援、健康、都市の持続可能性、教育分野におけるイノベーションについて討議を繰り広げました。3日間にわたりすべて英語で他国代表と議論・交渉を重ね、委員会全体の提言となる決議案(Draft Resolution)の作成に貢献し、その努力が認められ「優れた活動を行った大学」として受賞しました。



埼大学生広報サポーターが秩父商工会議所・ 関東経済産業局と連携し意見交換会を実施

8月28日(木)、秩父商工会議所において、観光振興をテーマとした意見交換会が開催されました。本事業は、秩父商工会議所が中心となり、関東経済産業局とともに企画されたもので、若者の視点を取り入れるために本学学生広報サポーターに連携の依頼が寄せられました。

本学からは4名の学生が参加し、午前中は「寺坂棚田」「羊山公園」「番場通り」などを実際に見学。その体験を踏まえ、午後の意見交換会では、観光客を増やすために「秩父に必要なものは何か」をテーマに、率直な感想や具体的な提案を発表しました。

学生の意見をきっかけに活発な議論が展開され、地域の方々にとっても新しい視点が得られる機会となりました。学生自身も、地域の方と直接意見を交わすことで、地域に貢献する喜びや学びを実感することができました。

今回の取り組みは、地域と大学が一体となって課題に向き合い、新たな価値を生み出す貴重な場となりました。本学は今後も、地域と連携しながら学生の成長と地域の発展の双方に貢献してまいります。



▲現地を視察する学生

「2025年度 埼玉大学 機器・分析技術研究会」を開催

9月4日(木)・5日(金)、「2025年度 埼玉大学 機器・分析技術研究会」を開催しました。今回で31回目となる同研究会は、全国の大学・研究機関において分析業務に従事する技術職員が一堂に会し、日ごろの業務に関する情報交換を目的として毎年開催されています。

初日の開会式において、坂井貴文学長および石井昭彦理事(研究・産学官連携担当)・副学長より参加者一同に対して研究交流を励ます言葉が述べられました。2日目の口頭発表では、各分野の成果発表に対して専門的な質疑応答が交わされました。会場には企業ブースも併設され、来場者が最新の分析機器に関する情報を収集していました。両日を通じて非常に熱気のある研究会となりました。



▲会場の様子



▲ポスター発表の様子

渋沢MIX プレイイベント「埼玉県発学生起業家の これから in埼玉大学」を開催

7月25日(金)、企業・起業家の交流と連携によりイノベーションを生み出す拠点「渋沢MIX(シブサワミックス)」がさいたま新都心駅前に開設されました。コンセプトは、「オープンイノベーションの創出・促進」「スタートアップの創出・成長支援」「イノベーションを担う人材の育成」の3点です。このうち人材育成に関する取り組みとして、学生起業に焦点を当てたプレイイベント『埼玉県発学生起業家のこれから』が、7月2日(水)、本学総合研究棟1号館のシアター教室で開催されました。起業や新たなビジネスに関心のある学生を中心に、渋沢MIXの活動やコミュニティに興味を持つ方々が多く集まりました。



9 産学官 社会変革研究センターが行政機関・民間事業者と「地域レジリエント社会研究コンソーシアム」を設立

7月31日(木)、本学にて「地域レジリエント社会研究コンソーシアム」の設立総会が開催されました。本コンソーシアムは、大学、行政機関、民間事業者が連携し、防災計画の策定・改善、災害対策の強化、インフラの維持管理など、地域の防災・減災に関する多様な課題に関して情報を共有し、実効性の高い取り組みを推進することを目的として設立されました。総会後、設立記念公開イベントを開催し、社会変革研究センター・レジリエント社会研究部門長でありコンソーシアム副会長を務める齊藤正人教授からコンソーシアムの概要を紹介。続いて、コンソーシアムに設置された3つのワーキンググループ「地理情報活用」「地域防災減災コミュニケーション」「インフラDX実践」の主査をそれぞれ務める教員が活動内容を紹介しました。

今後も本学は、地域と連携しながら災害に強い社会の構築に向けた研究と実践を推進するとともに、本コンソーシアムの活動を通じて、地域の防災力向上と持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



Pick up 研究者インタビュー：理工学研究科 大久保 潤 教授

数理的アプローチでAIの未来を変える！

急速にAI技術が私たちの生活に浸透していく一方で、AIの高度化には膨大な学習データや大量の電力が必要とされるという課題が浮き彫りになっています。

本学理工学研究科の大久保潤教授は、こうした課題を、数学にもとづく理論(数理)を応用することで乗り越えようとしています。AI技術の中でも「機械学習」にフォーカスし、確率や統計をベースとした数理を取り入れ、少ないデータでも高精度な予測や制御を可能にする新しい情報処理技術の確立を目指しているのです。

この技術が実用化されれば、データ処理の効率化により、AIを搭載する機器の小型化・省電力化も実現可能に。さらには、端末側で処理を行う「エッジコンピューティング」などの発展にも好影響を及ぼすことが期待されます。

オンラインマガジン『Frontiers of SU Research』の最新インタビューでは、大久保教授が語る研究の展望や社会的インパクトについてご紹介しています。ぜひご覧ください！



Frontiers of SU Research
<https://www.saitama-u.ac.jp/research/frontiers/column09/>



埼玉大学基金室より「埼玉大みらい基金」のご案内

埼玉大学基金は、目的別に「創立80周年記念事業募金」「埼玉大みらい基金」「埼玉大学修学サポート基金」「研究等支援基金」「冠奨学金基金」の5種類の基金がございます。今回はそのうちの一つ「埼玉大みらい基金」をご紹介させていただきます。「埼玉大みらい基金」は、下記の通り大学の機能強化及び学生への奨励事業などに幅広く支援しています。

教育・研究に関する支援



- 教育プログラムの整備充実等
- 国際的研究力の向上等
- 図書館での書籍の購入

キャンパスの環境整備に関する支援



- 安全・安心・快適なキャンパス整備等

国際交流事業への支援



- 海外留学の促進等
- 外国人留学生受入促進等

社会連携事業への支援



- 企業との連携強化等
- 地域・社会との連携充実等
- 埼玉大学生広報サポーター活動支援

学生への奨励事業に関する支援



- 特に優秀な学生への給付型奨励金制度の創設
- 100円食堂等、その他の学生支援

なお、ご寄附の活用状況はホームページにて公開しております。皆様からの多大なご支援に心より御礼申し上げます。

埼玉大学基金令和6年度活動報告
<https://www.saitama-u.ac.jp/funds/report/pdf/2024.pdf>

QRコード▶



今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。



詳しくはホームページをご覧ください
<https://www.saitama-u.ac.jp/funds/>

埼玉大学基金 検索

◆ 埼玉大学基金へのご寄附の累計額

令和7年9月末の状況 **749,288,513円**

うちリサイクル募金 きしゃぼん によるご寄附 **1,702,770円**

お問い合わせ先 埼玉大学基金室(総務部広報渉外課内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp

